

BOATMEN

NPO法人 石川県小型船安全協会会報「ボートメン」 25号 (2013年12月発行号)

Vol. 25

トピックス …小松梯川の拡幅工事に伴う暫定係留施設が一部完成、ざぶん賞2013表彰式 など
活動報告……マリンレジャー安全推進旬間出動式、海の事故ゼロ運動、夏のイベント など
行政から……平成25年度事故の状況、金沢・七尾海上保安部着任のご挨拶

ざぶん賞受賞作品◎ ポートマンズエッセイ・海の町に生まれて



小松梯川の係留協議を経て、施設の一部が完成しました。

5月27日 梯川水面利用調整会議幹事会

6月7日 金沢河川国道事務所との会合など

前年度の梯川の係留に関する調整会議を経て、本年5月、具体的な計画につき検討する幹事会が発足。委員として当会から吉田副会長ら小松マリンクラブの代表メンバーが参加。金沢河川事務所をはじめ、石川県、小松市の関係部局や漁協、町内会らの関係者が召集され、具体案を検討しました。

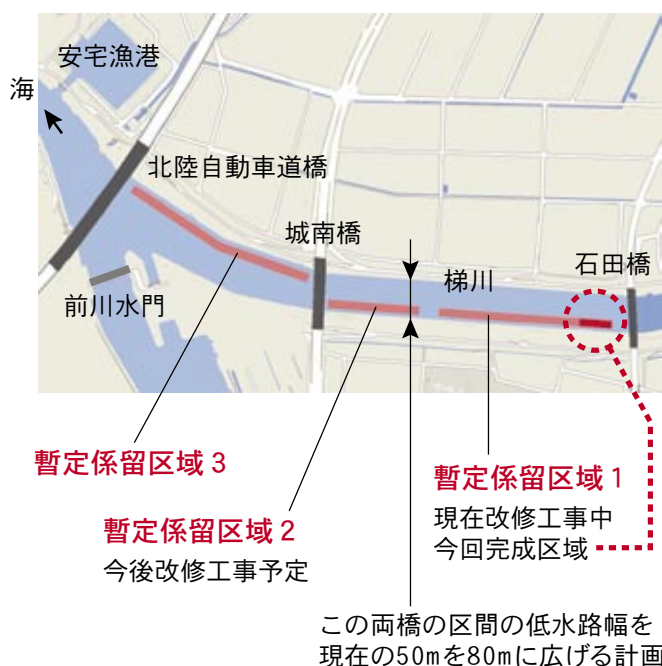
主な原案は下記となりました。

- ・石田橋から城南橋までの左岸と北陸自動車道橋までの右岸を小型船暫定係留区域として正式に設定。
- ・整備後重点的撤去区域を設定し、関係者に周知徹底を図り、無許可係留船として撤去すること。
- ・恒久施設の候補地は、まず安宅漁港と定め、漁港活性化計画において整備を図る。
- ・暫定係留施設整備は25年度以降、低水護岸工事施工後順次進める。

6月7日、金沢河川事務所と当会の高嶋会長、吉田副会長が会合を行い、当会として同計画に協力することとなりました。

11月30日 梯川鶴が島地区護岸完成式開催

今年度の工事として、城南橋から石田橋間の一部の暫定係留区域を含む改修工事が完成し、現場で記念式典が行われました。国会議員や県土木部長、小松市長、また地区の県・市議会議員らが参加し、視察しました。



拡幅護岸工事中の梯川

係留施設整備は受益者負担。小松マリンクラブに管理を一任。

係留に必要な係船杭は小型用と大型用の2種を準備し、平常な水面から1.7mの高さに揃えました。

利用者の負担は、係留杭などの工事費、および年会費（今後の恒久係留地整備のための負担金も含む）とし、小松マリンクラブが管理することとなりました。

また、将来の恒久対策の検討の一環として、安宅漁協にも数隻保管することとなりました。



梯川およびその周辺で係留の許可を得られる場がないかは、長年吉田副会長らが関係各所と数しれず折衝を重ね、一方ユーザー団体として結束と奉仕活動を指揮してきました。

海面利用の未来を見据え、また現場の安全を第一にした考えを貫かれました。当会も法人設立後、国や代議士などに受益者負担の原則を掲げ、暫定係留制度の活用やいくつかの整備案を提案しました。

北陸でも有数の急流河川であることから進展しませんが、国土交通省の皆様のご理解とご協力をようやく得られ、今回の整備になりました。

安部龍太郎氏の第148回直木賞の授賞式に参加しました。

2月22日 東京会館にて

ざぶん賞の選考委員長の作家、安部龍太郎氏の第148回直木賞の授賞式が東京で開催されました。

受賞作品「等伯」の出身地、七尾市で取材に協力した当会メンバーら関係者も参加しお祝いしました。



ざぶん賞2013(第12回)表彰式開催

11月23日 金沢で表彰セレモニー開催

当会が共催しているざぶん賞の表彰式が、金沢市のエクセルホテル東急にて開催されました。今回は全国の小中学生から過去最高の約7,500作品の応募が、また石川県からも多くの作品が集まりました。全国表彰と石川県地区表彰に選ばれた皆様が招かれ、約180名が参加しました。

式では、会長の月尾嘉男氏(東京大学名誉教授)のあいさつに続き、司会者と対談形式で、現在の世界と日本の水の問題をわかりやすく説明いただきました。

続いて来賓を代表し、金沢市長の山野之義氏が、また顧問の馳 浩氏が歓迎のあいさつ。その後、各入選者に順に賞が授与されました。石川県内の入選者には、石川県知事賞、石川県教育委員会賞、金沢市長賞、うみまる賞(金沢、七尾両海上保安部長表彰)がそれぞれ渡されました。



活動報告

総会開催。平成24年度の計画が承認

3月9日 輪島市で

総会は、会員、および来賓の皆様、約80名が出席され、能

登支部の協力により、輪島市で開催されました。

議案審議では、引き続き安全指導、パトロールの活動強化、ライフジャケットの着用徹底を県内各地で行うこと、係留保管場所整備、海洋体験推進事業、文化創造事業などの計画が承認されました。

その後の懇親会では顧問の衆議院議員 北村茂男氏も多忙の合間にご出席され、ご挨拶をいただきました。



海上指導員講習会を開催

各地で海上安全指導員の講習会を開催しました。

現在、海上安全指導員は42名、パトロール艇は33隻が委嘱され、海上で活動しています。

マリンレジャー安全推進週間出動式

4月28日 金沢港で(金沢支部)

金沢支部で、大型連休前のマリンレジャー安全推進週間の出動式を、金沢海上保安部の協力のもと行いました。

約20名、4隻が参加し、金沢港護岸周辺と、港内のパトロールを行い、レジャー活動者に安全の指導を行いました。

海の事故ゼロ運動

6月30日 七尾港で(能登支部)

能登支部では能登水難救済会、七尾海上保安部をはじめ、警察署や消防署、税関と合同で、約120名が参加し、海の事故ゼロ運動として啓蒙活動を行いました。

巡視艇や当会のパトロール艇による海上安全指導とともに、市内の企業から一日海上保安部長2名、保育園児の一日保安官を任命し、陸上、海上で安全の呼びかけを行いました。

また、会場にブースを設け、海上保安部、警察、税関とともに当会の活動のPRを行いました。



各地で合同安全訓練、講習会を実施

6月2日 小松安宅沖

加南支部（小松マリクラブ、手取会）と小松美川水難救済所の合同海難訓練を実施しました。今年も地域の警察や消防らとの連携を密にし、行われました。陸上に設置した本部の指示のもと、海上で迅速な行方不明者搜索、海中転落者救助、発炎筒点火等の訓練を実施しました。



7月17日・10月5日 羽咋滝港

滝港にて、羽咋支部、羽咋マリクラブは、羽咋救難所との合同のパトロール、および海難訓練に参加しました。金沢海上保安部の巡視艇わしかぜも参加し、海上保安部員の指導のもと実施しました。

4月20日 穴水湾、9月29日・10月6日 珠洲沖、10月25日 輪島沖

珠洲、輪島、穴水地区でもそれぞれ訓練を実施しました。輪島では参加18名、船舶6隻、珠洲は38名8隻、穴水は28名6隻がそれぞれ参加しました。



夏のイベントを各地で開催。

港フェスタ金沢 体験クルージング

7月15日 金沢港

金沢港で開催された港フェスタ2013の事業の一環で、金沢支部が体験クルージングを行いました。ボート8隻、会員役30名が協力。

あいにくの天候でしたが、親子をはじめ多くの市民が来場。晴れ間を見つつできるだけ多くの皆様をお乗せしました。

ボート天国・マリンスポーツチャレンジデー

7月15日 七尾港

恒例となった七尾港の体験航海「ボート天国」が開催されました。多くのご家族や子供たちがボートを体験しました。

七尾マリン協会、雌島クラブ、七尾セーリング協会が協力しました。



親子ボートフィッシング大会 7月28日 小松・美川塩屋沖ではキス釣り大会開催

今年も小松、美川で、親子を対象としたボートフィッシング大会が開催されました。

小松マリクラブと手取会のメンバーが主催し、小松では約100名、美川では約60名の親子が参加し、きす釣りを体験しました。

シーカヤック能登島里海フェスティバル、トライアスロン珠洲大会に協力。

9月28・29日 能登島で開催

能登島の豊かな自然を探索し、その環境保全と心身の健全な育成を目的とする能登島里海シーカヤックフェスティバル。今年は4回目となり全国から多くの愛好家が参加しました。今回は島の沖合の無人島を往復する里海レースや、ツーリングなどのメニューが用意されました。

当会能登支部が実行委員として運営全般に関わると共に、走行を監視するボートを提供し、安全な海洋レジャーの保持に協力しました。



8月24・25日 珠洲 鉢ヶ崎

トライアスロン珠洲大会に、今年も長浜マリン協会の皆様が、スイムの海上安全において協力いたしました。長浜マリン協会のメンバーがボートを提供し、各配置にて監視しました。

各地でクリーンビーチ、森の植樹や草刈りに参加

5月27日 金沢、 6月23日 小松・加賀

金沢、および小松では、今年もクリーンビーチに協力しました。金沢は大野、金石で、小松は小松マリクラブ約120名が安宅海岸で参加しました。

大聖寺川漁業組合マリクラブは、6月23日に山中温泉の県民の森で草刈りを実施。傾斜のある植林地で、手が行き届きにくい環境であるからこそ事業の必要性を認識され、毎年の恒例行事となっています。



利用者協議会に協力

3月2日 講習会開催（橋立漁港）

県の農林水産課の石川県海面利用者協議会に、当会から遊漁者代表委員として濱田理事が協力しています。3月2日、橋立漁港で講習会開催。当会から近隣の会員ら8名が参加しました。



スナップ



金沢港 港フェスタで一般市民を対象に体験航海を行いました。



能登島シーカヤック大会の運営に協力しました。



七尾港
海の事故ゼロ運動。
訓練や一日海上保安
部長を任命し活動。



羽咋湾港で海上保安部との
合同パトロールを開催



総会を輪島で開催。
北村代議士がご挨拶



安部龍太郎氏直木賞
受賞式・祝賀会に参加



ざぶん賞
全国表彰式
開催(金沢)



編集後記 食品産地偽装や作曲偽装の問題が話題になっています。街では「何を信じればいいのかわからない」という声が「決め台詞」で聞こえてきます。自分が確かめたものだけを信じていけばいいのですが、ワイドショーやネットがはびこる昨今は、どうも人の評価で物事の価値を決めている人が多い時代になりました。海や川での活動も、自然を経験していない多くの皆様が、とにかく「危ない」と叫び、レジャーに批判的な声もあがります。しかし我々は海や川に出て真実を確かめている貴重な存在なのです。周りの皆様には誇りをもって、優しく、粘り強く応えていきたいものです。